

質問回答一覧

| No. | 質問 | 回答 |
|-----|---|--|
| 1 | <p>(みなさんへ) 研究の過程で生まれるデータを2次データとここでは仮にいますが、高木家文書などは研究の対象となる画像データ(1次データ)も"研究データ"として扱われるのでしょうか。</p> | <p>(小林) 外部由来の研究データとして扱われます。例えば、データ管理計画では、外部から収集するデータについても研究データとしてその由来や利用条件等を記載します。</p> <p>(田中) 本学の学術データポリシーにおいては、今回取り上げた高木家文書については、本学附属図書館研究開発室を中心に収集・整理された資料群ということで、「学術データ」の定義に含まれるとみなしています。</p> <p>【参考】「名古屋大学学術データポリシー解説」より https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/commentary/datapolicy_commentary.pdf</p> <p>2. (学術データの定義)</p> <p>※ 学術データとは、研究と教育に関する学術活動を通じて取り扱うデータをいう。デジタルか否かは問わない。収集または生成したデータだけでなく、それらを解析または加工して作成したデータも含まれる。(後略)</p> <p>(南山) 高木家文書のように本体史資料の代替となる画像資料は、入手ルートとして①自ら研究のために新たに取得する場合、②どこかで撮影されたデータを入手して利用する場合、の2パターンが考えられ、①の場合は直截に研究データ、②の場合は外部由来の研究データとして整理できるように思います。</p> |
| 2 | <p>データキュレーターは一つのプロジェクトに何人くらい必要でしょうか？ また、新しい職種と思いますが、データキュレーターに必要なスキルや、どんな職種の人がなれるのでしょうか？</p> | <p>(南山) データキュレーターという名称自体は古くからあり、特にデータ整理を行う生命科学系や博物館系のキュレーターがデータキュレーターと呼ばれてきています。さらに、古くはCDやDVDを整理する「デジタルキュレーション」の文脈から、研究データに対してキュレーションを行う人をデータキュレーターと呼ぶようになってきています。</p> <p>(小林) ユニットには3人おり、全員が一所懸命データを作成したり、データ公開に関するツール類を開発しているが、理研の多くの研究室すべてに対応はすることはできていません。メタデータの作成にあたっては、研究者になじみ深い表形式のテンプレートをデータキュレーターが準備し、研究者からデータを収集しているがこれでもまだ不十分です。何人と確定させることは難しいですが、プロジェクトの大きさに合わせて柔軟に対応させていく必要があります。</p> <p>(茂出木) 私自身はデータキュレータに具体的なイメージを持っていないのですが、若い図書館員が新たにチャレンジしていくことは応援したいです。また、データキュレータがいないから新しい業務が出来ない、とは言いたくないです。</p> <p>(田中) 図書館員に対して新たに付与したい役割、という大学からの期待があると受け止めています。期待に応えることができれば、専門職集団として図書館員がアピールしていけるポイントにもなりえると思います。</p> |
| 3 | <p>田中さま、学内研究所とのデータ登録実験は、図書館側でどのような作業をするのでしょうか？</p> | <p>(田中) 現時点では、研究所の先生方、情報戦略室の先生方と実証実験の内容や課題を共有しているところで、分野特化したメタデータスキーマをどうマッピングしてリポジトリで公開するか等、先生方に教えて頂きながら進める必要性を感じています。まだ始まったばかりで、これからどんな作業や支援ができるか分かりませんが、研究所教員からも言われている通り、本実証実験の経験を他の分野にも生かして展開していきたいところです。</p> |
| 4 | <p>小林さま、生命科学データはすでに専門分野ごとに詳細なオントロジーやメタデータスキーマが決まっているようですが、生命科学以外の人間(たとえば図書館職員)が扱えるものなののでしょうか？</p> | <p>(小林) オントロジーも多くあり、どれを使えばよいか判断することは難しい問題です。一方で、科学は生命科学に閉じておらず、オントロジー内でも接点を作っていく必要があります。外の視点から見えて欠けている場所、連携できそうな場所を探していくことになりますが、図書館員がどこまで出来るかは分かりません。</p> <p>(茂出木) 正直難しいのでは。簡単に出来ると言ってしまふのはその分野の専門家に失礼だと思います。</p> <p>(田中) メタデータに関しては目録規則のように基準が決まっていれば図書館員も担える面はあると思いますし、期待もされていると思いますが、どこまで踏み込めるか、かなりチャレンジングではあります。</p> <p>(南山) 各種ポリシー(助成機関、知財等)との整合性をチェックする観点で貢献できる部分はあるかもしれない、と思いました。</p> |

質問回答一覧

| No. | 質問 | 回答 |
|-----|---|---|
| 5 | (皆様へ) 機関リポジトリでは論文とエビデンスデータは公開するものと思いますが、それ以外の研究データは分野ごとに従来からあるデータベースやDXでの公開や制限共有がなじむものと思います。研究データを機関リポジトリで公開またはメタデータの公開をするにあたり、どの範囲まで等は決めていますか？ | <p>(小林) 目的に応じてどこまで公開するか、は研究者自身が考える問題で、データを出すことで、面白いと思ってもらえる、コミュニティを作れる可能性があったり、分析のノウハウがないが、データ自体には価値があるはずなので、出して分析を促すやり方もあります。一方、企業との共同研究ではクローズにすべき観点も重要です。また、分野別のデータリポジトリがあり、登録しないと評価されない分野もあります。研究者自身がデータをハンドリングできることが重要で、研究上のメリットを残したまま、データやメタデータの公開に繋げるルートが必要に思われます。</p> <p>(茂出木) 東工大は理工系大学と大きく括られるが、当然ながら理工系の中でも各分野の作法はあり、データ公開の方法や範囲も各分野でのやり方が優先されるものと理解しています。そういう標準がまだ確立していない、あるいは標準から溢れた部分をどうフォローしていくか、を考えていくこととなります。</p> <p>(田中) 大学が用意する研究データの公開場所として機関リポジトリは提供しますが、その他のリポジトリを選択することに当然問題はないし、図書館から制約もしていません。研究者が主体的に決めることと理解しています。</p> |
| 6 | 実際のメタデータの実例、キュレーション作業など見せていただけるとありがたいです。あるいはこれらのデータを参照できるサイトなど紹介していただけるとありがたいです。 | <p>(小林) 一例として、顕微鏡撮像のメタデータについて紹介します。GibLabにて、国際コンソーシアムOpenMicroscopyEnvironment(OME)等において作成したオントロジーとメタデータを公開しています (https://gitlab.com/openmicroscopy/incubator/ome-owl/-/tree/master/)。ここにはオントロジ、メタデータの設計図ともいえるグラフ形式でかかれたデータスキーマ、それをオントロジーとして書きだしたOWLと呼ぶ形式のファイル、そしてオントロジーを使ったRDF形式のメタデータの例も掲載しております。</p> <p>(田中) 研究データへのメタデータ付与例としてのご紹介のみですが、本学リポジトリで公開している例としては以下のものがあります。 http://hdl.handle.net/2237/00032309 https://doi.org/10.18999/33569</p> |
| 7 | (みなさま) 本日のセッションの目的は「データキュレーションのニーズや課題を共有する」ということでしたが、みなさまがお感じになった一番大きな(複数でもよいのですが)「課題」について改めてお話しただけないでしょうか。(どのお話もとてもきれいにまとめられており、あまり課題を強く感じなかったのです) | <p>(小林) データセットにつけるメタデータがないとどこにあるか分からないのが第一の課題ですが、他の機関と連携する際にそのままでは難しく、標準が必要です。研究者がデータを探す際、機関に問い合わせることはしないので、仕様が決まっているメタデータが必要ですが、研究の早い段階でメタデータを収集する難しさ、装置の独自性から標準メタデータをつけられない、ラボごとにキュレーションのやり方が違うなど課題も多くあります。しかし、研究者がデータをどう使ってもらいたいかが、重要であるにも関わらず、研究者、関係者とどううまく相談して進めていくかの定型がないのが一番の課題です。</p> <p>(茂出木) 図書館の仕事はここ10年、20年でも変わってきており、どんな不確実な状況下でも、とにかく片付けていくしかないと思うながら仕事をしてきました。研究データ関連でも、現時点でこれが課題だから出来ない、ということは感じていません。やりながら考えて進むしかないと思います。</p> <p>(田中) 研究者に対しては、各分野における研究データ管理や共有、公開の通例がまだ支援者側に見えておらず、どういった働きかけをしたら研究データ公開に前向きになっていただけるかが分からないことです。支援者側については、各部署の熱量の差、連携の強化などが課題だと感じています。</p> |
| 8 | (田中様へ) 「研究データ公開用のメタデータテンプレート」を参考に拝見したいのですが、他機関の者が拝見できますか？どこかで公開されていますか？ | <p>(田中) 年度内には本学リポジトリの登録要領のページに掲載予定です。適宜下記ページの更新を確認ください。 https://nagoya.repo.nii.ac.jp/page/29</p> |
| 9 | (茂出木さま) 爆走されえた根底にあるものは「信頼」だと、大変納得しながら聞かせていただきました。どうすれば茂出木さんのように学内各方面で信頼される図書館員になれるでしょうか。心掛けてらっしゃることがあれば教えてください。 | <p>(茂出木) 私が「信頼できる」と思った方の振舞いや行動を意識して真似しています。具体的には、きちんとした装いでいること、マメにこちらから相談に伺うこと、自分が相談を受けたら前向きに解決策を提案すること、約束した期限を守ること、発言すべき時には臆せず発言すること、などです。</p> |

質問回答一覧

| No. | 質問 | 回答 |
|-----|--|--|
| 10 | <p>（茂出木様・田中様）ポリシーの策定は事前の文献読み込み等も含め、相当の労力だったのではないかと推測します。トップダウンということでしたが、人的リソースに限られる中で、現場の反発のようなものはなかったのでしょうか。現場に話をするにあたっての工夫などがあれば教えてください。</p> | <p>（茂出木）各自への指示が端的で明快なものでしたので、それに対しての現場の反発は特になかった。（と私は思っています。）先行機関・大学の事例や文献を読み込んだのは、担当職員もそうですが、館長と茂出木も同様で、担当するからにはそれをやるのは当然だと思います。</p> <p>（田中）私自身はポリシー策定そのものには関わっていないため、会議報告等で聞き出した範囲での話ですが、各部局に話をおろした際には、主に教員から、オープン・クローズ戦略まで大学が踏み込もうとしていると捉えられたことによる反発や、ポリシーを制定するメリットを感じられないなどの声がありました。そういった誤解を解いたり、ポリシーの位置づけや制定の狙い、他の法令や学内規程類との関係性を丁寧に説明する必要は生じたようです。</p> <p>（小林・コメント）理研では自然科学全般を扱うため、分野ごとにデータの扱い方が全然違います。研究フローから見直して、納得いただく形を探るプロセスを経ました。そして、機関として大まかなポリシーを作る、研究センター別の具体的なポリシーを作るという2段階を経ました。また、見直しを行う観点も大事で、外に出す部分はあまり変えてはいけませんが、現場に近いポリシーは柔軟に変更できるとよいと思われれます。</p> |
| 11 | <p>（みなさんに）ここで言うデータキュレーションのワークフローを考えるときにOAIS https://en.wikipedia.org/wiki/Open_Archival_Information_System) などがあると思いますが、それに基づいたスキルや役割の割り振りなどありますでしょうか？</p> | <p>（南山）今回ご講演いただいた皆様の中で、直接OAIS参照モデルに基づいたスキルや役割の割り振りを構築している機関はないようです。一方で、（個人的な見解ですが）同モデル自体はデジタルキュレーション/データキュレーションの用語や考え方の基礎になっているため、今後国内におけるデータキュレーター役割を位置づけていく議論の中で、随時参照されることになろうかと思えます。</p> |
| 12 | <p>（茂出木様）京大・名大では、ポリシー本文と別に解説というものを作られています。東工大さんでは「実施方針」がそれに該当するのでしょうか。ポリシーと同時に作成するのではない形にしたのは、どのような理由でしょうか。</p> | <p>（茂出木）説明の中でも触れましたが、今年度は、研究データポリシーを具体化した「研究データ管理・公開実施方針」を策定中です。ポリシーと同時に作成しなかったのは、理事からご指示いただいた仕様と納期に沿って検討・作業を進めたからです。</p> |
| 13 | <p>茂出木さま、Gakuni RDMを7名の学内教員で試用されていると書かれてありますが、試用利用の意見交換会で先生からはどのような意見が出ましたでしょうか？</p> | <p>（茂出木）研究データの管理基盤として、一定の使い方はできそう。研究室ですでにデータの管理基盤を整えている場合は、敢えて乗り換える理由は見つけにくい。今後、有償になった場合の価格設定しただが新たに自分で構築するよりはGakuNin RDMを使うメリットは感じられるかも。NIIが提示しているGakuNin RDM以外の公開基盤、検索基盤との連携がいつ実装されるのか知りたい、等の意見が出ています。</p> |
| 14 | <p>茂出木様への質問です。ポリシー前文を新人に任せたい深謀遠慮を教えてください。（プレゼン発言のママで恐縮ですが）</p> | <p>（茂出木）新人を迎えた際に大事なことは、この大学はどのような組織であって何を狙っているかを理解してもらうことです。学長等が発信したものを読んでまとめる作業をやることで勉強になります。</p> |